



「秋田の子」 今でも、これからも

[秋田市観光クチコミ大使]
日本放送協会
地域改革推進室 室長

よし の まさ し
吉野真史氏

我が家の冷蔵庫の内扉には、いまも常時2~3本の秋田のお酒が並んでいます。都内で探せる銘柄に限りはあるものの、我が家には私を含む3人の「調査員」がいて、それぞれが出先で発見した一本を買い求めるという暗黙のルールがあり、ほとんどストックが切れるということがありません。お気に入りの酒器に注いで一口含めば、心はたちどころに秋田で過ごしたかけがえない歳月へと戻っていきます…。

私が秋田でお世話になったのは2018年夏から2021年春にかけて。ちょうどコロナのピフォアとアフターをまたぐような時期になります。それまでほとんど縁のなかった土地でしたが、着任早々、甲子園での金足農業高校の大活躍で一気に心をわし掴みにされ、秋田の魅力にのめり込んでいきました。とりわけ、四季の色合いの見事なまでの移ろいは、首都圏で生まれ育った私にとって衝撃的でした。通勤経路にちょうど市民市場があったのですが、季節ごとに並ぶ旬の産物に、自然とともにある暮らしの豊かさ、人間本来の立ち位置を教えられるような思いでした。もともと取材を生業にしてきたこともあって、分からないことはどんどん尋ねることにしているのですが、秋田の人たちは、それはもう親切というレベルを超えるように世話を焼いてくれ、その温かさにも惚れこみました。幸か不幸か私は単身赴任の身でしたが、「これは週末に東京に行っている場合ではない」と考え、私が東京に行く代わりに、家族を呼んで秋田で週末を過ごすということを繰り返したところ、家族もすっかり秋田ファンになり、娘などは「私は秋田のお酒しか飲まない!」と宣言するに至り、ついには冒頭のような仕儀と相成っているわけです。

勢いに任せて個人的なことばかり書き連ねました

が、この「秋田に惚れる」という感情は仕事のうえでも最大の土台となるものだと思っています。「好き」に理屈はありません。好きな相手のためなら大抵のことはできます。NHKは全国47都道府県の全てに放送局がありますが、それは、それぞれの地域のためにあるわけで、秋田放送局はもちろん秋田のための存在です。そこで働くなら、秋田が好きであった方が良く決まっています。そんな思いもあって、私は毎年着任する新人職員に「秋田の子になろう!」と呼びかけていました。それは自分自身に言い聞かせる言葉でもありました。親子の愛が無条件であるように、秋田との関係を結んでほしい…そんなメッセージが実を結んだかのような番組やイベントがいくつも生まれたことは、私の在任中の嬉しい成果です。

いま、私は全国のNHKの地域放送局を支えるという職責を担っています。秋田での経験がその軸になっていることは言うまでもありません。全国でそれぞれの「地域の子」たちがその土地のために汗を流す、そんな力になれるよう微力を尽くしたいと思っています。ここだけの話、どうしてもちょっぴり秋田を虜にしてしまうのを何ともしがたいのですが…。

さてと、今夜も冷蔵庫の扉を開くのが楽しみです。今宵はどの1本にしましょうか。

■略歴

- 1966年 東京都大田区生まれ
- 1989年 日本放送協会入局
ディレクター・プロデューサーとして
報道局、沖縄、バンコク、ニューヨーク
などで勤務
- 2018年 秋田放送局長
- 2021年 現職